



2学期2週間を終えて

早いもので2学期がはじまり2週間が過ぎました。子どもたちの登校の様子を見ていると、残暑と戦いながら、そして学校生活のリズムを取り戻そうと大変頑張っていると思います。朝の挨拶を聞いていると最初の頃は「疲れているのかな。」「熱中症になっていないかな。」と心配するくらい小さな声で挨拶してくれる子がほとんどでしたが、最近は「おはようございます!」と大きな声で私より先に声をかけてくれる子が増えてきており、そんな時はとてもうれしく思います。

さて、学校では子どもたちの学校生活のリズムを取り戻すことを第一にこの2週間取り組んでまいりました。子どもたちが学校生活のリズムをつかみ、安心して学校に登校できるよう先生方をお願いしていることは大きく次の2点です。

①学級経営の充実

学級経営は学校教育の中核をなすものです。学級は児童が学校で生きる力を身につけるための大切な場です。そこで先生方には、「学級経営方針(2学期の教師の願い)を子どもたちに語ること」「学級のルールの再確認すること」「教師が許さないこと(いじめ等)を明確にすること」「子どもたちをほめること」「楽しい授業をすること」「子どもたちに2学期の目標をもたせること」をお願いしました。

②気になる児童の早期発見・早期対応

長期休みによって学校という社会から離れていたため、順化していくのに子どもたちもエネルギーを使います。「欠席が続くこと」「休み時間に独りぼっちになること」などSOSのサインを見逃さずにチームで対応していくことを再確認しました。

保護者の皆様におかれましても引き続き子どもたちの様子を見守っていただき、心配なことがございましたら、学校と協力して子どもたちの成長を育んでいきましょう。

日本の伝統芸能～能楽公演会

9月9日(火)3・4校時を利用して、文化庁芸術等総合支援事業を活用した「能楽公演」が実施されました。京都より「京都能楽囃子方同明会」の皆様をお招きし、将来を担う西小の子どもたちの豊かな感性を育む場になるよう公演を依頼しました。公演では、「能囃子の秘密」や「狂言」について実演と分かりやすい説明がありました。また、子どもたちの代表が同明会の皆様と共演する時間も設けていただきました。大人でも普段なかなか触れられない能や狂言ですが、目の前で本物に触れることができ、子どもたちは貴重な体験ができました。これを機会に国を愛する心を育んだり、伝統文化に親しむきっかけになったりしてほしいと思います。

<児童の質問>

Q どうして能楽や狂言を始めたのですか？

A 代々能や狂言に取り組んでいる家に生まれたので、小さいときから始めました。

Q どのように練習しているのですか？

A みんなで集まる練習はほとんどしません。一人一人が練習して覚えることをしています。

Q 小鼓が演奏中に壊れることはありませんか？

A 壊れることはめったにありませんが、もし演奏中に壊れたら、取り替えるまで扇子で代用します。

<児童の感想>

○ 小鼓をたたかせてもらいましたが、紐の握りで音が変わるところが面白かったです。

○ 大鼓をたたかせてもらったけれど、力を入れても音が出ないので難しかったです。



